

佐の橋近くから遠く富士を望む

金目川は秦野盆地を出た後、下大槻を経て扇状地となり金目地区の水田地帯を潤します。土屋地区的座禅川が合流する佐の橋からのベストビュー。さらさら流れる清流と比較的大きめの丸石が並ぶ河原は、釣り、川遊び、バーベキューなどを楽しむ人気スポットですが、かつては徳川家康の命によって築かれた「御所様堤」などもすぐ下流にあり、洪水に頻繁に悩まされたところもあります。

文：原 博雄

翡翠



コバルトブルーの頭と翼、オレンジ色の胸と腹。その美しい姿は水辺の宝石とも呼ばれ、好きな野鳥の投票で、しばしば人気 NO.1 に選ばれています。

金目川水系では、カワセミは主に中流から下流域に生息しています。チーツと言ふ鳴き声とともに水面を飛びます。そして、水辺につきでた枝から小魚を狙い、水中に飛び込む姿を見ることができます。

最近、カワセミは増えていると感じます。これは下水道の普及で水質が改善し餌となる生き物がふえたことと、カワセミが川の護岸の人工的なパイプなどに巣をつくるようになったからだと思われます。野鳥の中では、人間が作った環境に順応していく種と、順応できず絶滅していく種があります。カワセミは前者かもしれません。

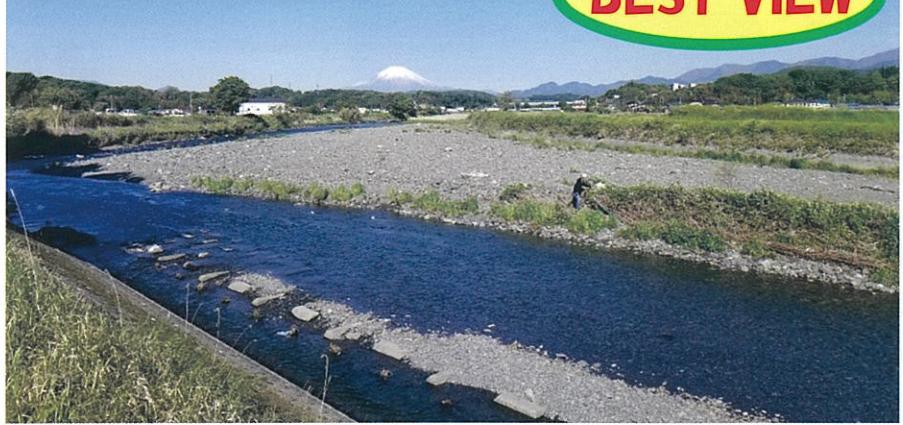
文と写真：近藤博史



表紙 ミスガキ検定の答え

- 第一問 元々日本にいる生き物を食べつくしたり、エサを奪ったりして生態系を乱すからだよ。ペットショップなどで売っていた「ミドリガメ」を人が放して増えてしまったんだ。
- 第二問 上流からの土砂で川底が上昇して氾濫するのを防いだり流木等により橋脚が破損するのを防ぐためだよ。
- 第三問 正解は②21 km。ちなみに、流域面積(降った雨が金目川に流れ込む土地の面積)は180km²。

BEST VIEW



里川の 自然と文化

水神様



わたしたちが見守りを続いている金目川水系も地球温暖化の影響で大雨による危険箇所の氾濫が心配されています。金目川の水は広大な田畠をうるおしてくれる一方で、過去に度々氾濫をおこし、流域の人々を悩ませてきました。

そのため水神様をまつり、水の恵みに感謝し、洪水除けを祈念しました。

金目川下流域にかかる「水神橋」、この橋の名の由来となった「水神様はいざこに…」と橋を渡るたびに気になっていました。

石仏に詳しい友人に訊ねたところ、水神橋左岸の土手から少し離れた場所に「水神」と彫られた石仏がひっそりと祀られている場所に案内してくれました。

用水の水が枯れぬよう、また洪水にならぬよう祈願した昔の人々の思いが消えずにしっかりと残っています。

「水神」は川の土手や用水の取水口、また遊水池、池などの水に関連した場所や、堤防の決壊した場所に祀ったという伝承もあります。

路傍の石仏を見つけたら、まわりの川の流れや地形を見ながら今と昔に思いをはせてみてはいかがでしょう。

文と写真：山口和子

湘南里川づくりみんなの会会報「湘南里川だより」
第3号
発行日 2021年11月20日
発行 湘南里川づくりみんなの会
編集 会報編集委員会 担当 手塚真理
事務局 〒254-0073 平塚市西八幡 1-3-1
神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課
電話 0463(22)2711
ホームページ: [湘南里川づくり](#) で検索！

金目川水系で子どもたちが安心して学び遊べる川づくり



湘南 里川だより

湘南里川づくりみんなの会 会報

2021年11月
第3号



日本環境学会のシンポジウムを共催しました

日本環境学会第47回研究発表会 公開ミニシンポジウム
**大学における
社会的実践力の育成**
～地域連携の活用を含めた事例紹介～

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場での開催は見送りました。オンラインにて開催されました。
このシンポジウムは、環境問題に対する意識の高まり、「環境問題を解決するためには、各分野の連携が必要」という認識が広がる中、各所で被災が続出し、小田急線も運行見合わせになり、Zoom開催でなければ、中止とするしかない状況でした。私も、厚木から、各所で灌水している道路を迂回しながら、なんとか大学にたどりつくといった有様でした。

当日のシンポジウムでは、組織化事例紹介ということで、平本氏（神奈川県）、柳川氏（金目ネット）、上田氏（個人会員）、吉浦氏（横浜ゴム）の各位に、それぞれのお立場から里川づくりの現状や課題についてお話しいただき、参加者も交えたフリートーキングや質疑応答で締めくくりました。

全体としては、子どもたちの体験の場の提供、大学生と連携した活動への期待、客観的な教育効果の判断をどうするかなど、若者世代に目を向いた意見が多く述べられました。今の子どもの親世代は、すでに、子ども時代の自然との体験的ふれあいが不足している傾向にあります。そうなると保護者世代も巻き込むことが必要ですので、「親子…自然体験」のような企画が有効ではないでしょうか。

また、新型コロナ感染防止対策として、Zoomを用いたオンライン開催としましたが、やはり、全体の雰囲気を感じ取れる対面実施とは異なる環境で、戸惑いも多かったです。しかしながら、移動を必要としませんので、時間と費用の節約になり、長距離移動と開催場所確保を考慮せず、手軽に様々な企画を立案できるなどの長所も提示されました。今後は、対面とオンラインの長所をうまく組み合わせる工夫が必要ということでしょう。それにより、地域連携の幅が広がるかもしれません。

シンポジウム終了後は、空模様を気にしつつ、帰路につきました。

湘南里川づくりみんなの会会長 藤野裕弘

できるかな？

ミズガキ検定に挑戦！ 第二回

第一問 ミシシッピアカミミガメはなぜ川にいると良くないといわれるの？

第二問 川の底を掘って平らにする工事（浚渫・しゅんせつ）はなぜするの？

第三問 金目川の水源から海までの距離はどのくらいあるかな？

①13km ②21km ③31km こたえは巻末をみてね

(注)「ミズガキ」とは、淡水魚類研究家・魚道設計者の君塚芳輝氏が命名し、江戸川大学恵小百合名誉教授が提唱する、少年のように地域の水にまつわる様々な疑問を持ち、その解答を模索し続けることで地域の社会智（地域の価値観や文化的な遺産）を育むことが期待される人のこと。恵教授による2020年2月2日湘南里川フォーラム2020の基調講演を契機に出題しています。



豪雨災害について考える

平塚でレベル5が発令

7月2日から3日にかけ記録的な大雨により、平塚では全国初となる「緊急安全確保(レベル5)」が発令され、19万人を超す市民に命の危険があるとして避難するよう呼びかけられました。南金目や山下など多数の地域で、床上、床下浸水被害382件、土砂災害37件などの災害が発生しました。



南金目の吾妻橋（坪井氏提供）



金目川中流域の日常の風景

最近の洪水被害のニュースで、「ここに50年以上住んでいるが、こんな洪水が発生したことはなかった」という住民の声がよく紹介されます。

近年、気候変動が主な原因と思われる豪雨災害が、毎年どこかで発生するようになってきています。

平成27年9月関東・東北豪雨、平

成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月西日本豪雨、令和元年関東・東日本豪雨、令和2年7月豪雨（熊本豪雨）、広域かつ計画外力をはるかに上回る規模の集中豪雨が発生し、災害が激甚化しています。

令和元年の台風19号では、相模川の城山ダムは初めての緊急放流の操作が必要となり、下流域の自治体では洪水が発生することが予想され、これまで経験のなかった事態に住民の避難行動は混乱をきたしました。

我家の安全を考える

私たちは今、自分の家が自然災害に対しどのようなリスクがあるかを知り、自らの防災意識をたかめ対策を講じていくことが求められているのではないでしょうか？

普段から身近な川について知っておくことが大事だね



河内川と高根川合流地点の氾濫状況（湘南平のやまびこ地域情報局）

湘南里川見守り隊紹介

団体会員

金目川水系流域ネットワーク

代表 柳川 三郎

朝日が小石にあたりきらきらと光って、川の流れは人の気持ちを明るくしてくれ、感動を与えてくれます。

豊かな水源の春嶽山、清き水を蓄えているブナの新芽は太陽に向かって輝いています。

水源の山は平塚市、秦野市、伊勢原市が共同で守っています。

6月には7年間継続して金目川流域のCOD調査を行っています。値は向上して、希少種のアユカケ（絶滅危惧種Ⅱ類）やニホンウナギ（絶滅危惧種）が生息をしています。川幅は中流の土屋橋が61mと長い。金目川は時に発生する攪乱によって生き物が豊かになっています。“自然の力”を多くの人に伝え、恵みの川を次代につなげていく地道な活動を実行しています。



△苔をはむアユ

